



時代を超えて 縄文文化に学ぶ

■問合せ 社会教育課 (☎ 74-3010)

採集・漁労・狩猟を基盤に

1万年以上生活を継続

縄文文化とは、氷河期が終わった、約1万5、000年前に始まりました。日本列島で本格的な稲作が始まる約2、300年前の弥生時代開始まで、約1万年間の定住生活を続けてきました。

縄文時代に入って特に重要なことは、土器が出現したということです。縄文土器は、時期や地域によって文様や形に違いが認められています。最古の土器は、今から約1万5、000年前に作られ、世界的にみても古いことが分かっています。縄文土器は主に煮炊きに使われたと考えられていて、多種多様の植物の利用を可能にし、衛生的・栄養的にも効果をもたらしたことが、定住を可能なものとしたのです。

定住生活によって、縄文人の知的世界は大幅に拡大しました。自然の中から自分たちの有用な資源を突き止め、自

然との共生を基調とした暮らしを築いていくと同時に、お墓や土偶などにみられるように「祈り」の精神文化を発達させてきました。

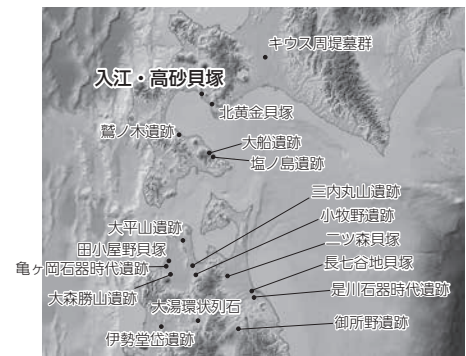
高砂貝塚で見つかったお墓の中に、母子のお墓がありました。お墓には赤い顔料（ベンガラ）が大量にふりかけられ、手厚く埋葬させられていました。もしかすると、母子を埋葬した縄文人は失われた生命の再生を強く願ったのかもしれない。

縄文人はムラをつくり、祭祀や儀礼の場所を作ったり、縄文時代の後半は、複数の集落で維持管理する祭祀施設や共同墓地が営まれるなどの社会を形成していました。

縄文人は現代人の祖先と考えられていて、縄文文化の延長線上に私たちの生活が成り立っています。祖先の生活を学ぶことで、私たちの生活のルーツを学びませんか。

目指せ！世界遺産

北海道・北東北の縄文遺跡群



現在、入江・高砂貝塚を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、世界遺産登録を目指しています。世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきたかけがえない宝物です。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」はどういった点が世界遺産登録の評価ポイントとなるのでしょうか。

①狩猟・採集・漁労を生業の基盤に定住を達成し、成熟した縄文文化へと発展を遂げた先史文化の様相を伝承する無二の存在

縄文文化は、縄文時代と同時期の世界の他地域とは異なり、本格的な農耕と牧畜を選択することなく、狩猟・採集・漁労を生業の基盤としながら定住してきました。先史文化としては世界史上極めて稀有なものです。

②約1万年間もの長期にわたり気候変動や環境変化に適応し持続可能な定住を実現した、自然と共生した人類と環境との関わり、土地利用の形態を示す顕著な見本

縄文文化は、最終氷期から後氷期にかけての急激な温暖化によって生まれた、世界的にも希な生物多様性に恵まれた生態系に適応し、約1万年間もの長期にわたって持続可能な定住を実現しました。

世界文化遺産登録までの流れ

これまでの動き

- 2007年12月
「北海道・北東北の縄文遺跡群」についての提案書提出
- 2009年1月
世界遺産暫定一覧表に記載
- 2019年7月まで
文化審議会世界文化遺産部会で世界文化遺産推薦候補に選定
- 2020年2月
国からユネスコ世界遺産センターへ推薦書提出

これからの動き

- 2020年9月ごろ
国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) による現地審査
- 2021年夏ごろ
世界遺産委員会による登録審査

アプタ・フレナイの会神馬会長に聞きました

縄文人が暮らしてきた歴史が 自然に恵まれた地域の証明

1町に貝塚がある価値

約1万年間、噴火湾や自然の恵みなどの狩猟採集だけで生活してきた土地だということから、それだけ恵まれている地域ということが分かります。

縄文人の特性や考え方などが分かりやすい貝塚であるため、縄文人の心や生活の技術を知ることができ、現代で生きる私たちが忘れがちなものを教えてくれます。

1アプタ・フレナイの会

自分たちで縄文の文化を勉強し、知識を高めて伝えていくことを目的に活動しています。近郊の市町のサークルとの情報交換や道内の遺跡を巡り、勉強しています。年に1回縄文まつりを開催し、町民に縄文を体感してもらうような活動も行っています。

世界遺産推薦候補決定



アプタ・フレナイの会
神馬久夫会長

日本の文化遺産候補として選ばれているのに、町民の意識は低いような気がします。縄文文化は魅力があるので町外から来た人に誇りをもってPRできるように、縄文文化に対する町民の意識を高めていきたいです。また、世界遺産の選定が実現したら、現在の活動を基本として、仲間と連携し、サークルとしての活動を広げていきたいです。誇れるまちとして多くの皆さんに縄文文化を伝えていきたいです。

縄文を見る

入江・高砂貝塚

高砂貝塚



入江貝塚

入江貝塚は縄文時代後期の貝塚で、1942年に発見され、1967年に、当時の伊達高校郷土研究部峰山巖や札幌医科大学によって発掘調査が行われています。高砂貝塚は縄文時代晩期の貝塚で、1950年に発見され、伊達高校郷土研究部や札幌医科大学によって調査が行われています。

これらの調査によってそれぞれから大規模な貝塚が見つかり、その中からたくさんのお墓も見つかりました。

高砂貝塚は令和3年4月のオープンに向けて、現在公園化整備を進めています。

現地に足を運び、縄文人が見ていた風景を感じ、自然豊かな恵みを受けていた縄文人の姿を想像してみませんか。

入江・高砂貝塚縄文 collection

入江貝塚



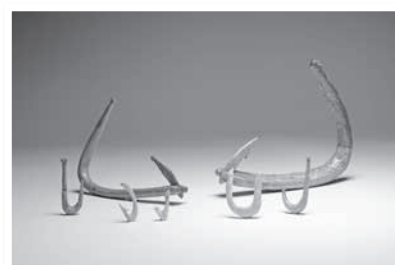
ポリオにかかった人骨

1967年ころに発見されました。幼少期に病気となって、その後遺症により、手足が不自由になったと考えられます。周囲の介護を受けながら縄文人が助け合って生きていたことが想像できます。



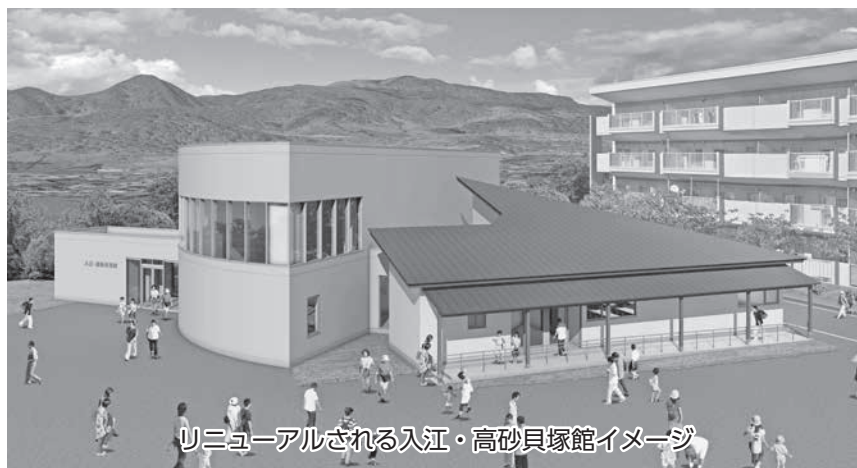
入江式土器

1950年ころに発見されました。縄文時代後期(約4,000年前)のもので、木の棒で渦巻や波型の文様がついています。他の土器には見られない特徴であることから遺跡の名をとって名付けられました。



骨や角で作られた釣針

釣り針は、鹿の角で作られたものが多く硬くて丈夫です。小さいものから大きいものまであるので、魚の種類や大きさに合わせて使い分けられたことが分かります。



リニューアルされる入江・高砂貝塚館イメージ

縄文に触れる

入江・高砂貝塚館

入江・高砂貝塚館には、縄文人による完全ハンドメイドの道具たちがずらりと展示されています。

現在は、令和3年4月のリニューアルオープンに向けて増築・展示改修工事中です。改修される入江・高砂貝塚館

展示品も縄文人のフィギュア（人形）の設置などが新設され、以前より見どころある施設となります。

は、展示ゾーンのA～Fがストーリーとなって展開されます。それらの道具や文化に触れ、縄文人の暮らしを体験しましょう。

展示ゾーン概要

A. 住まいと遺物

- ・縄文人の住まい
- ・暮らしの道具
- ・入江式土器の世界
- ・ムラはいつから？ 他

B. 縄文人と海

- ・縄文人の海獣狩猟
- ・銚を操る縄文人
- ・縄文人の漁労
- ・骨の道具－銚頭のかたち 他

C. 縄文人と森

- ・縄文人の狩り
- ・縄文人とエゾシカ
- ・本州から運ばれたイノシシ 他

D. 弔いと祀り

- ・弔いと祀り（貝塚はごみ捨て場？）
- ・骨が語る縄文人（ポリオ人骨）
- ・骨が語る縄文人（妊産婦人骨） 他

E. 入江・高砂貝塚周辺の貝塚と遺跡

- ・噴火湾沿岸の貝塚
- ・北海道（道南部）と北東北の主な遺跡
- ・世界・日本の中の入江・高砂貝塚
- ・入江・高砂貝塚の調査史

F. 縄文その後…

- ・続縄文時代
- ・擦文時代
- ・近世アイヌ文化期

高砂貝塚



「屈葬」された人骨

高砂貝塚で埋葬されていた人骨の多くは手足を折り曲げて葬られていました。これは、母なる大地の体内に戻り、再生を願ったからと想像できます。



土偶

縄文時代晩期（約2,800年前）に作られた土偶です。口をポカンと開けていたり、脇を開けてガニ股なのが土偶の特徴です。

そのデザインは、精霊を表現したもの、お守り、生命の再生の象徴などの説があります。



銚先

イルカやオットセイの骨が見つかりますのでこのような銚先が使われたと考えられます。

どれも鹿の角で作られていて、細かい文様が刻まれています。この文様の一つ一つは獲物をたくさん獲りたいという、縄文人の心が表れているのかもしれません。